

福井大学(学部入学定員:900人、大学院入学定員:379人)

[取組学部・研究科等: ○工学部(555人), 工学研究科(275人)]

【構想の目的・育成するグローバル人材像】

歴史や文化が異なる地域においても、世界の人々と協働して生き生きとした暮らしづくりに貢献できる高い専門能力と創造力・実践力を有した技術者「Global IMAGINEER」の育成を目的とする。

【構想の概要】

①「実践的グローバル人材育成プログラム」の開発と実施 ②「語学センター」による実践的英語教育の実施 ③国際的通用性を持つ教育課程の実現。この3本柱を核として、工学部・工学研究科を中心に21世紀グローバル社会において高度専門職業人として活躍できる優れた人材を育成し、国際的にも通用する質の高い教育の実施を目指す。

■大学のグローバル化に向けた戦略と教育課程の国際通用性の向上

○ 教育課程の国際通用性の向上のための取組

本学役員・教職員による海外大学ベンチマーキングに加え、訪問先の一つである米国ブラウン大学FDセンター長を招聘し、本学の大学改革・教育改革に向けた、1週間に及ぶ集中的な教育観察・評価、学生・教員・役員との意見交換を実施し、本学独自の新たな国際的教育評価モデルを構築・実行した。

○ 戦略的な国内外への教育情報の発信

「国際交流・留学」に特化したホームページを新規に作成し、本学の理念・基本目標を始め、当事業の構想やその取組について、詳細に情報を発信している。

○ 事務体制のグローバル化

国際交流センター(留学生センターを発展改組)及び国際課を新設した他、留学経験等を持つ職員の採用、職員向けの英会話授業の実施など、グローバル化推進体制を整備・強化した。



〈短期海外研修プログラムの拡充〉

■ グローバル人材として求められる能力の育成



〈PBLによる英語教育〉

○ 実践的グローバル人材育成プログラム

平成25年度には、37研修に延べ199名の日本人学生(全学部)が参加した(平成24年度11研修(参加日本人学生延べ123名))。特に、研修内容や達成目標に合わせて各研修を分類し、学生が学修段階等に合わせて適切な研修を選択できるように体系化した。また、プログラム参加による成長度測定法として、ルーブリック法による「福井大学グローバルコンピテンシーモデル」を設け、全参加学生の成長度測定に利用している。

○ 実践的英語教育

語学センター教員と工学部日本人教員によるProject Based Learning(学生4名が1組となり、橋梁の設計等をテーマとする学習および発表を英語で行うPBL授業)を一部試験的に実施し、その教育効果と発展の可能性を確認した。

○ 国際通用性を持つ教育課程

高等教育推進センターにて、より精度の高いナンバリングやラーニングマネジメントシステムの導入に向けて検討を始めた。

■ 語学力を向上させるための入学時から卒業時までの一体的な取組

○ 入試における中等教育段階までの外国語力・留学経験等の適切な評価

工学研究科博士前期課程の一部の選抜では、外国語(英語)の試験において、科目試験またはTOEICスコア利用の選択制を導入している。また、入試関係委員等を対象に講演会を実施し、グローバル化を意識した入試改革について理解を深めている。

○ 効果的な語学教育及び教育体制

少人数・習熟度別クラスでの実践的英語教育に加え、国内外で活躍する技術者による講演会(Practical English for Professional Engineering Seminars: PEPES)にて、グローバル社会で必要な資質や英語能力の必要性を取り上げ、英語学習の意欲向上を図った。また、言語開発センター(Language Development Center)を設置し、言語自主学习を促進させる体制を整えた。

■ 教員のグローバル教育力の向上

○ 教育体制のグローバル化

教員自身がグローバル人材としての意識と実践力を涵養するため、海外研修の企画、実施、引率、派遣前後および派遣中の教育に携わる機会を創出することにより、国際化への意識の向上と国際交流に関するスキルの向上を図っている。

○ グローバル教育力向上のための取組

米国ブラウン大学FDセンター長、米国バージニア工科大学教員、ナポリ東洋大学教員等によるFD/SDセミナーを開催し、高等教育におけるFDの役割や欧米における教育の現状等について学ぶ機会を設け、国際通用性の高い教学ガバナンスの構築に向け、取組を進めている。

■ 日本人学生の留学を促進するための環境整備

○ 動機付けや留学を促進するための取組

語学教育の成果を留学者増加につなげるため、国際交流センター、語学センター、国際課、各関係施設の連携を強化した。また、留学関連情報を発信するメーリングリスト制度の学生登録および配信内容を充実させ、各募集情報を確実に伝達している。

○ 留学中から帰国後にわたるサポート体制

事前教育や留学前後のオリエンテーションの内容は、留学目的や渡航時期を考慮し、臨機応変に実施している。参加学生にiPadを貸し出し(一部)、本学との連絡や現地活動での情報収集に使用し、安全管理や学習効果が最大限となるよう努めている。

卒業・修了時に学生が修得すべき具体的能力

産業界が求める、国際的な事業で活躍できる英語力に基づき、卒業時に修得すべき外国語力スタンダードをTOEIC750点またはTOEFL PBT550点と設定する。英語力に加えて、東アジアまたは東南アジア1カ国の言語において初級程度の到達を目指す。また、グローバル社会において高度専門職業人として活躍できる優れた人材育成を目的として、学生の卒業・修了時には、①創造力、②自己学習力、③問題解決能力、④教養・専門的知識、⑤コミュニケーション能力の修得を目指す。

本構想において実現する達成目標及び実績

全 学		達成実績			達成目標		
		2011	2012	2013	2014	2015	2016
外国語力スタンダードを満たす学生数				2人	12人	25人	50人
うち海外留学未経験者数 (A)				2人	8人	18人	25人
海外留学経験者数 (B)		16人	33人	43人	42人	53人	60人
卒業[予定]者数 (C)		555人	556人	548人	555人	555人	555人
比率 ((A+B)/C)				8.2%	9.0%	12.8%	15.3%
工 学 部	卒業時の外国語力スタンダード	TOEIC750またはTOEFL PBT550		2人(2)	12人(8)	25人(18)	50人(25)
	海外留学経験者数	16人	33人	43人	42人	53人	60人
	3カ月未満	16人	33人	43人	40人	50人	55人
	3カ月～1年	0人	0人	0人	2人	3人	5人
	1年超	0人	0人	0人	0人	0人	0人
卒業[予定]者数		555人	556人	548人	555人	555人	555人

※1)「外国語力スタンダードを満たす学生数」の学部ごとの記入欄の()内は、外国語力スタンダードを満たす学生数のうち「単位取得を伴う海外留学未経験」の学生数を示す。

※2)上記の「海外留学経験者数」は、いずれも単位取得を伴う海外留学経験者数であり、単位取得を伴わない海外留学経験者は含まない。